

あなたの「つぶやき」を政策につなげよう！

～女性の視点をまちづくりへ～



講師：原田 裕子（山崎町商工会）

※このレポートは、平成22年5月26日に行われた講演の一部をセンターで要約したものです。

【第2ステージの始まり】

男女共同参画社会基本法が、平成11年6月に施行され10年が経過した。国では、知識習得や意識啓発を中心とした第1ステージから、さらに具体的な取組に取り組み、実践的な第2ステージに進むべきだと白書で述べている。

私は、「西洋や研修」なのかあるいは「具体的な課題」なのかという観点ではなく、「ストロークがどこから出ているか」ということで政策推進上のステージを推している。水際をする時にストロークをかくというが、これは手を前に出して流れをつくるということでもあり、第1ステージでは行政が、政策の受け手としての住民へストロークを出す。第2ステージでは住民自身が、ストロークをかくて流れをつくる。さらに住民自身がストロークを出し合う段階を第3ステージと位置付けている。「ストロークがどこから出ているか」という観点で世の中の動きや政策の流れをみると、政策の進捗感がわかり、行政としては今何にどう取り組むべきかの目星がつく。私が長年農業政策に携わってきたなかで「あ、第2ステージに入った。次のストロークが伸びてきた」と実感した時がある。昭和45年以降の減反政策により、農家は、米以外の野菜、花、果物やその加工品等を作らなければならなくなり、新しい技術習得が必要となってきた。その時活発に動き出したのが女性グループ。果樹、養蚕や経営のノウハウについて熱心に勉強されていたが、ある日、「いいものができたので自分たち自ら売ってみたい」と行政に要望があり、1週間、福岡市天神の岩田屋で売り場を持つことになった。赤字になるのではないかと心配したが、自分たちでの企画運営に苦心され、黒字を確保、好評で、数年間この取り組みは続いた。その結果、農産物や行政も女性パワーに一目置かれ、畜産の産先を直売所として貸してくれること。今や、久留米市や県内各地で直売所ブームである。筑前町でも立派な直売所が山辺に完成し、多に賑わっている。

【審議会等女性委員の活動をつなぐ】

審議会に参加している女性たち、その人材は宝である。「第1」「第2」「第3」ステージと進む時、審議会に参加している女性たちが、「私が参加した審議会はどうだった、あなたが参加した審議会はどうだった？」等の情報を交換し、審議会への理解を深める。そして「それだったら私も参加できるよね」というように意見を出し合い、共鳴する人を確保し、その野を伸ばしていくことが、次のステージへスムーズにバトンタッチをしていくために必要なことではないかと思う。

例えば「都市基盤整備の審議会委員に」と言われた時、「いや、都市基盤なんて難しい」とと辞退する人がいる。なぜ辞退されるのか。それは、行政が難しい言葉で住民に説明するからである。しかし、審議会には専門家が通常配置されるので、専門的な知識が求められるわけではない。私たちが、日常生活の暮らしの中で、生活者としてのアンテナをしっかりと立て、そこでキャッチしたことをストロークとして出せばいいのである。だから、決して肩肘張りせずに、気軽に参加してほしいと思う。一方、行政サイドとしては、奥のほうで、高いな議論をするのではなく、平場で、平易な言葉で議論し、「なんだ、そんなことを議論しているの」と言われる程、審議会が住民の身近なものとなるよう努力すべきではないか。

【住民パワーへの期待】

住民から行政へのストロークが少ない。これまでは行政が一方向的にストロークをかくてきた。「行政が何かしてくれる」「行政が道を切り開いてくれる」「行政が将来像を描いてくれる」等住民は受け身になってしまっているのでは？

行政は縦割りである。しかし、縦割り行政を横につなぐのは住民の声である。私たちがすべきことは、自分自身が将来像を描き、生活者として立てたアンテナで情報をキャッチし、そこから動き起こってくる層や仲間、要請等を行政に届けていく。そういう住民サイドからの動き、働きかけが、今まさに必要なステージに来ているのではないか。

私たちが目指している「男女共同参画社会」は、女と男が共に暮らししていく社会である。そこには、人々が生きていくための様々な制度、しくみがある。その軸心が社会であり、その社会を担っているのは、男性でも女性でもある。男女は社会の同じ構成員、メンバーである。その意識を持って、これからの社会活動を展開していくことが大切。

私たちが2つの目を持っている。しかし、見えないうところがある。たまには、上から全体を見渡す「鷹の目」を持つ。また、全体を見るだけではなく、具体的にひとつひとつの課題は育ち、小さいところを見逃さない「虫の目」も持つ。そして、男女共同参画は道いである。さらに、「鷹の目」を持ってその流れを見よう。私は、「意識的にこの3つの目を持って、アンテナを立てて世の中を見つめ、男女共同参画社会形成への流れを推進していこう」と呼びかけたい。

トピックス 男の子育て—イクメンパパ

〈取材レポート〉 第1回九州・山口パパサミット開催 九州男児をイクメンに

6月20日 大野城市まどかびあ 主催：ファザーリング・ジャパン九州



九州・山口各県の「イクメンパパ」が集結し、父親の子育てについて語る語り合うパパサミットが開催されました。「父親が笑えば社会が変わる」をテーマに、今年4月に旗揚げしたファザーリング・ジャパン九州（福岡市）が主催し、夫婦など約60名が参加しました。

「九州男児をイクメンに」と題した公開討論会では、育児時間をとるための工夫として「朝早く出勤して、夜は子どもと一緒に過ごしている」といった意見や、育児の理解を得るために「産前で子どものことを話すなどして、子育ては楽しいことをアピールしている」といった意見。またパートナーとの関係については「育児の時間と同じくらい夫婦のコミュニケーションが大切だ」等の意見が出ました。

最後に「九州パパ宣言」として、各県の男性の一日の育児時間が、全国平均（56分）を上回る、平均60分以上を目指すことを宣言し閉幕しました。

久留米市が今年3月にまとめた男女平等に関する意識調査によると、男性が一日のうち家事をする時間は、「していない」が33.4%、「30分未満」が30.0%と、家事にあまり参加していない現状が浮かび上がっています。

取材を通じて「子育てを楽しむことは、人生を楽しむこと」という参加者の思いを強く感じました。男性も、できることから子育てに積極的に参加してみたいかがでしょうか。なお当日の様子はファザーリング・ジャパン九州のHP (<http://fj.jp/>) でご覧いただけます。

男の子育てセミナー 2月14日 いきいきイクメン 私のやり方 ～共に働き共に育てる～



講師：小嶋 恭弘（神戸大学大学院経済学専攻）



最近、父親が主役の映画や育児雑誌のPAPA特集で非難が取り上げられるなど、父親の育児が話題になっている。地域でもオヤジの会や父親たちがつくったNPOなどの興味が湧いてきた。自分もそういう道に関わるようになって見えてきたのは、「笑わないお父さんの横に笑わないお母さん、さらにその横には笑わない子どもがいる」ということだった。

西宮市の全立保開所はじめての男性保育士として

西宮市の保育士採用試験に合格し当該保育所に配属されると思っていたが、男性が保育をするのが一般的ではなかったため、児童施設へ配属となった。施設では素晴らしい経験をした。しかし自分の子どもの出産に立ち会って「やはり子どもと関わる仕事がしたい」という気持ちが強くなり保育所への異動を希望した。その希望が実現し初めて1歳児を担当してみると、戸惑うことが多かった。他の保育士からは男性保育士というと、元気で活動的というイメージから幼少児担当が向いていると思われ、

一方で保護者からは「男性」というだけで最初は不安に思われたようだ。保育所では更衣室やトイレ・園なども、女性中心で作られていて不便なこともあった。女性でもできるのに男性というだけで高い木への廊りつけや蛍光灯の取り替えはよく任せられた。

育児休業をとおして見えてきたもの

「仕事が休める」「子どもがかわいい」と喜んで育児休業を取ったが、思い通りにいかない育児にひとり向き合う不安や不眠に押しつぶされそうになり、産後以上に大変だった。母親一人で子育てして育児不安や虐待に繋がるケースもある。子育てはママ一人がするものではない。PAPAだってオムツ替えも食事もお風呂の世帯もできる。父親の子育てで求められるのはママだけではなく子ども、PAPA（自分）、企業、社会もだ。父親も積極的に参加して育児の楽しさを味わおう。

（セミナーでの小嶋さんのお話の一部をセンターでまとめました）

特集

子育て中の女性を応援します

「育児」のあいまの「育自」の時間

リフレッシュのための

ブックタイム

ゆっくりと自分に
向き合う時間を...



ブックタイムってなに?

お子さんと一緒に、2時間本と自分にゆっくり向き合えます。子育て中の方に「リフレッシュできてよかった」と毎回好評です。

図書情報ステーションには女性の生き方に関する図書や雑誌などを所蔵しています。日頃手にしない本をこの機会にじっくりと読んでみませんか?

利用者の声

- ・紙用付きなので安心して本が読めました。
- ・子育てで疲れていた心がリフレッシュしました。
- ・自分の時間が持てたのは3年ぶりです。ワクワクしながら参加しました。
- ・ブックタイムの日に着てきた本が自宅近くの図書館で読めるので便利です。

これからの日程

9/10(金)、14(火)
10/8(金)、12(火)
11/12(金)、16(火)
12/10(金)、14(火)
1/14(金)、18(火)
2/4(金)、8(火)

いずれも10時~12時
定員：各回8名(抽選)
申込期間：毎月25日まで

**情報の
お持ち帰り**

オリエンテーション

初めてブックタイムに参加された方には、20分程度のオリエンテーションを実施しています。

オリエンテーションの内容は、図書情報ステーションの利用方法、センターで実施する講座の案内、センターを使いこなすコツなどです。「情報」をおみやげにお持ち帰りください。

**こ～んがに
便利です**

図書カード

①図書情報ステーションの本・DVDは、久米市立図書館の図書利用カードで貸し出しします。

②借りた本は市内の図書館どこでも返却することができます。

③久米市立図書館のホームページから本の検索や予約ができます。

④予約した本は市内のお近くの図書館で受け取ることができます。

子どもも自分も大切にしたいあなたへ

一時保育を利用して「自分の時間」をつくりませんか!

男女平等推進センターでは、子育て中の方が、まちづくりや社会活動へ気軽に参加できるよう、講演会等の各種事業を行う際、一時保育を無料で行っています。対象となるお子さんは、8ヶ月から就学時までです。また、えーるピア久米内には、女性男性を問わず、自由に利用できる給乳設備やベッドを備えた授乳室もあり、小さなお子さん連れでも安心してご来館いただけます。今回は、子育て中の方を対象とした主な事業を紹介いたします。

平成22年5月21日～6月18日(全5回)

わたし流・ライフデザイン講座

講師 藤吉 サワ子
(キャリアコンサルタント)

この講座は、子育て中の女性たちに、「母親・妻としての自分」だけでなく、「ひとりの人間」として、子育ての悩みを共有しながら、それぞれ次のライフステージを描いてみようという企画です。子どもたちを一時保育に預けて、ゆっくりと自分の気持ちを開放させながら、次のステージでの仕事や目標に思いをはせる時間が持てよう。



第1回 わいせいがやがやが言いたい放題

「夫」、「子ども」、「誰か(両親・仕事先など)」に対して、日頃の思いを一言カードに書き出し、タイトルをつけ発表しました。参加者のみなさんは日頃の悩みが自分だけのものではないと共感し合い、気持ちが楽になったようです。

第2回 子どもを育てて、変わったことは?

育児のためのしごとを書き出し、リストを作り、自分自身を振り返ってみました。参加者のみなさんからは、「みんなも同じような子育ての悩みがあることがわかった」「自分が意外と育児を楽しんでいることに気付いた」などの声がありました。

第3回 少し先を行く先輩たち

子育てをしながらアクティブに活動する先輩や、仕事への再チャレンジを始めた先輩の体験談を聞き、その前向きで前向きな生き方が良い刺激になったようです。



第4回 3年後の私

3年後の自分の姿をイメージして紙に書くことで日ごろ抱えている思いを整理し、自分の近い将来に目を向けるきっかけとなりました。



第5回 グループでパワーを上げよう

講座終了後も、育児を協力し合いながら子育て後のライフ・デザインを描いていこうと、興味した仲間たちでグループ「Pocket」を立ち上げました。皆さんの今後の活躍が楽しみです。

男女平等推進センターを活用しよう

センターでは、男女平等社会の実現をめざして活動する市民グループをさまざまな形で支援しています。

- 対象** 久留米市及びその周辺を中心に活動している、または活動予定のグループ
- 支援事項** グループが企画・実施するセミナー、講座、講演会、ワーク・ショップ、朗読会、上映会、寸劇など形式や種別を問わず、広く市民を対象に実施し、男女平等や男女共同参画をめざすもの。

市民グループ企画公募

＊年間2期に分けて募集。講師等への謝金の助成

H21年度実施公募企画紹介

「ここにあることを表現する」
身体表現ワークショップと性暴力をテーマにしたパフォーマンス



〈企画〉NOISH久留米

「紙芝居と詩朗読」

紙芝居：古いちゃんのかげおくり
詩朗読：わたしが一番をいだったとき
フリートーク：女性の立場から戦争を考える



〈企画〉For Peace

「講演と体験指導」

こうやって治せる女性の泌尿トラブル
～おきらめないうで腎臓病を癒えよう～



〈企画〉久留米市健康障害者協会女性部

調査研究グループ公募

＊年に1回募集。調査研究に関わる実費の一部助成及び報告会を実施

H21年度調査研究グループ紹介

「大学生のファッションに関する研究会」
久留米市内の大学生グループが、大学生の男女のファッション支出に関する調査を行いました。

センターとの共催事業

＊随時募集。講師謝金等の助成

H21年度共催事業紹介

「親が伝える性教育」
・性教育ってどんなもの？
・今、子どもたちに何が起きているのか
・メディアから受け取る「性」情報



〈企画〉NPO法人レポート

その他の支援内容等...

- ① 実施会場（スーパークエスト久留米の施設）と設備機器の使用料減免
- ② 広報くまめへの掲載やチラシの一言配布、配架
- ③ チラシ用紙の提供、印刷機の無料使用
- ④ 一時保育に関する支援
- ⑤ 参考文献、データ、人材情報等の提供 など

男女平等推進センター専用団体募集

センターを継続して利用する団体・グループが一定の基準を満たした場合、団体登録すると次の特典があって活動しやすくなります。

1. 部屋の先行申込（3ヶ月前から可）
2. 電話・FAX・インターネットからの申込
3. ロッカー、作業室、2階会議室の使用

作業室にはパソコンが常備されています。



作業室



2階会議室

相談室だより

「相談室」は、市民グループの活動支援や、男女平等推進センターの運営に関するお問い合わせを受け付けています。また、市民グループの活動支援や、男女平等推進センターの運営に関するお問い合わせを受け付けています。

「相談室」は、市民グループの活動支援や、男女平等推進センターの運営に関するお問い合わせを受け付けています。また、市民グループの活動支援や、男女平等推進センターの運営に関するお問い合わせを受け付けています。



～男女平等政策室からのお知らせ～

市審議会等委員への女性登用率37.0%

平成22年4月1日現在の、久留米市の審議会・委員会等における女性の登用率は、37.0%でした。前年度36.7%から1.3ポイントの上昇です。そして、公平委員会に初の女性委員が誕生しました。

今後、女性委員の登用を進めていくためには、周囲の理解と協力に加えて、女性自身の意識を高めていくことも重要です。

市各分野の女性割合（平成22年4月1日現在）

名称	定数	委員構成			女性の比率%
		女	男	計	
市議会議員	43	8	35	43	14.2
教育委員会	6	1	5	6	16.7
選挙管理委員会	4	1	3	4	25.0
公平委員会	3	1	2	3	33.3
監査委員	4	0	4	4	0.0
農業委員会	53	1	52	53	1.9
国土交通審議会等委員	13	3	10	13	23.0
計	112	23	89	112	37.0